

# 技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部・九州技術士センター秋季号<第69号>(平成18年9月15日発行)

## 巻頭言

### ライフ・ワークを持つとう

九州支部顧問 帆足 建八 (建設・福岡)

私が満62歳になった年、突然関連会社の防災工業(株)の社長に就任要請があり、(株)福田組の役員とこの会社の社長の2足ワラジをはくことになった。この会社は根固、消波ブロックの型枠を貸す会社で、本社は東京にあり、九州に住む私にとって、兼務とはいえ、難しいことであった。社長として会社に貢献することは精力的に営業を行なうか或いは、智恵を絞り「環境にやさしいブロック」を技術開発し、特許を取得して、技術力向上による貢献をするかの2つの方法が考えられた。そこで、比較的自由な時間に仕事が出来ると考え、無謀とも思われる後者を選択して、挑戦を試みた。紆余曲折があり、6～7年の歳月を要し、最終的には、「魚に優しい川づくり」と云う私のライフ・ワークになった次第である。初めからライフ・ワークを持つことが、以下に述べる様な多くのメリットがあることに私自信も気付かず、今になって、その効果が大きいことを実感したので、ここに取り上げてみた。まず、私自身の日常生活において大きな変化が見られた。何時もライフ・ワークに関する情報に興味を持ち、未解決の問題に対し、解決しようとする意欲が旺盛になったこと。川を見ると、魚の生息状況とその周辺の環境を考察しようとする意欲と自然から何かを学ぼうとする謙虚さが生まれた。更に川の環境を詳しく知る為に魚類、藻類、水生生物、植物等の専門家と知り合いとなり、その結果土木技術者としても、幅広い知識を有することにより、今迄に気付くことがなかった新しい工法を見い出すことも出来た。また、日常生活において、常に、未知の領域を知ろうとすることは大きな生きがいに通ずるものであり、電車の中、水中ウォーキング中で、新工法の工夫等について、新しいアイデアを模索することの楽しさを改めて、実感したものである。

次に、ライフ・ワークと会社の業務が一致する場合は、会社の支援を受け、様々な積極的な対策が考えられた。コンクリートに付着する藻類が付着易くするプロジェクトでは高炉スラグに詳しいTコンサルタントと異業種ベンチャーを組み、アユ・ストーンなる鮎が付着藻類を喰み易い、環境型のブロックを開発した。これはわが国で既に4千個以上の使用実績をみた。現在我が国の河川で魚の生息環境に重大な支障をもたらしているものに取水堰がある。川と海を上下する魚種は魚道がないと致命的な支障が生ずる。この対策として河川環境に関心を持つコンサルタントと防災工業(株)と河川研究会を設け、約4ヶ年にわたり、簡易にして、安価な魚道の改善、新設に関して実践的な研究を行ない、既にその成果が得られている。官と民との共同研究の事例として、ブロックの中に粗朶を挿入し、ウナギ等穴居性の魚類が生息し易い様に工夫したスーパー・アユ・ストーンを開発し、国土交通省及び大分県で実験し、その効果も確認されている。

以上の様に、技術士が、ライフ・ワークを持つメリットをまとめてみると、

- (1) 技術士は多くの異なる専門家集団で、お互いの技術補完が可能であり、技術が実践的でもあり、技術開発業務のコーディネーターとしての役割も十分果たし得る。
- (2) 個々人の技術力の向上が技術士会全体のレベルアップにつながる。
- (3) ライフ・ワークを持つことにより知名度があがり、各種委員会での委員の任命等により技術士の社会的地位の向上につながる。

最後に、1人でも多くの技術士の方がライフ・ワークを持ち、技術向上に研鑽を積まれることを切に望むものである。  
(株)福田組技術顧問 防災工業(株)会長

# 「技術士力」、「技術士会力」を高めましょう

長崎地区代表幹事 大橋 義美（建設、総合技術監理・長崎）

ドイツで開催されたサッカーワールドカップはイタリアの優勝で幕を閉じた。このW杯を最後に中田英寿選手が引退を表明したが、試合での活躍は印象的であった。このすばらしい活躍の陰ではプロとして誇れるような日々の自己管理、厳しい練習、そして、試合における全力投入、これがプロとしての姿であろう。

プロといえば、NHKで以前「プロジェクトX」が放映され、プロとしての技術者の姿に感激したものである。今は「プロフェッショナル・仕事の流儀」が放送されている。我々も、プロの技術者としての誇りを持って、日頃の研修・研鑽を怠らず、業務に当っては厳しい姿勢で望むことが必要である。

ところが、一方ではプロの技術者がプロとしての倫理等を踏み外した行為により社会の安全・安心を脅かす事件が新聞・テレビで報道されている。誠に残念なことである。

技術者として、適切な倫理的判断能力を持って行動しない者はプロフェッショナルな技術者ではないと考える。

例えば、元一級建築士が自身の判断でのホテルやマンションの耐震強度偽装、資格の名義貸し等により社会的に大きな問題となっている。

この偽装問題では、元建築士の技術の未熟さや建築確認検査機関の審査上の問題も発覚している。

又、エレベーターで死亡者が出る事故も発生した。この事故では、2年前に発生した回転ドアでの事故を思い出された方も多いと思う。過去にも技術者倫理欠如による事故が社会問題となったが、その様な例が活かされていないことは非常に残念である。

我々も「対岸の火事」とせず、技術のプロである技術士としてどのように対処すべきか熟慮すべきであると考える。

ところで、書店を覗くと「技術者力」や「〇〇力」「△△力」といった本が数多く並んでいる。

そこで、技術士が技術士であるために欠かせない力を「技術士力」と呼べば、必要な力は、専門技術に対する諸々の能力はもとより、技術を伝える能力、指導力、倫理観・道徳観等がある。そして日本技術士会会員であることも技術士力の一つと考える。

倫理については、技術士法及び技術士会の倫理要綱があり前書きに「技術士は・・・選ばれた専門技術者としての自負を持ち本要綱の実践に努め行動する」とあり、品位の保持など10項目が制定されている。技術士は日頃の業務に当って、この要綱を念頭に行動して行きたい。

又、技術士会が技術士会であるために欠かせない力を「技術士会力」と呼べば、必要な力は、組織の確立、組織率、活発な研修会等実施、社会へ向けて技術の発信、そして技術立国へ向けての貢献などが考えられる。

技術士会には、「技術士ビジョン21」と「行動指針」があり、これを座右として技術士登録者全員が内容を熟読し、共有して会員として着実に展開することが必要と考える。

ところで、日本技術士会の組織率が技術士登録者の約20%と低率であり残念であるが、これが目標の50%となれば大きな力となり21世紀の技術を担う会になると考える。入会勧誘策については種々論じられ実施されているが、九州支部と九州技術士センターの一本化が具体的になった今、未入会技術士の皆さんには是非日本技術士会へ、そして地区の技術士会への入会をお願いしたい。

そして、日本技術士会員として、技術士会での幅広い技術部門の研修会参加等と共に、専門的な諸学協会等での研修・研鑽による技術力の醸成はもとより、倫理観・道徳観を兼ね備えたプロフェッショナルとして業務を遂行し、又、社会へ向けた積極的な行動をして、個人としての「技術士力」、組織としての「技術士会力」をより高めたいものである。

## 理事会等 概要報告

(社)日本技術士会 理事・九州支部副支部長 是永 逸生 (機械、総合技術監理・北九州)

前号では3月に開催された平成17年度第6回理事会と同時に開催された平成17年度臨時総会までを報告しました。本号では5月に開催された平成18年度第1回理事会、6月に開催された平成18年度定時総会、平成18年度第2回理事会の概要を報告します。

### 報告1 平成18年度第1回理事会

(開催日時:平成18年5月11日 13:00~17:30)

#### (審議事項)

#### 1. H17年度事業報告、収支決算について

6/23開催の本部定時総会に提出する資料の最終承認であり、内容としてはH17年度のトピックスとして下記を掲げている

①「技術士ビジョン21」の実現に向けた体制、②会員拡大・技術士活性化、③部門・部会の今後のあり方、④品質確保法に係る技術士活用要請、⑤CPD認定会員制度の発足、⑥JABEE認定コース選択者への技術士制度普及、⑦APECエンジニア登録分野拡大、⑧原子力・放射線部会新設、⑨技術士登録情報の最新化調査

事業報告書に支部や部会活動内容が詳細に記載されるようになった。

収支決算書では技術士入会者数が予定よりも少ない為に緊縮財政になっている。

#### 2. H18年度新名誉会員 (九州支部分のみ)

川崎迪一 (建設・九州支部長4年)

政野光男 (九州支部幹事20年)

H18年度会長表彰 (5名) (九州支部分のみ)

泉館昭雄、大橋義美、斉藤建男、松浦茂雄、内山順治

#### 3. 公益法人制度改革への技術士会の対応

社団法人関連3法案が国会に提出され成立、H20年4月から施行

技術士会は一般社団法人で、文科大臣の監督に属する。公益社団法人をめざす。

#### 4. 会員推薦状規則の制定

会員の業務拡大・職場開拓の為に支援の一環として、会長名による推薦状を交付する。

【交付の要件】①会員暦4年、②支部・部会会務1年、③CPD認定会員、④会の名誉、⑤会費未納

無し、⑥利用目的以外に無使用

【手続き】①支部長、部会長に申請、②支部長・部会長は事務局長経由で会長に申請、③事務局長は内容確認の上、会長の決裁を得て推薦状を交付

#### 5. 技術士業務報酬の手引き

過去4年間据え置いてきたのでH18年度版で改定日決め方式:143,000円/日

技術士直接人件費:68,100円/日

修習技術者の指導技術士の報酬を含めて「修習技術者支援特別委員会」を設立して課題解決を図ることにした。

#### 6. 退会者、委員会委員任期ほか

定款(2年以上会費未納)による退会:会員56名、準B42名

日韓技術士会議実行委員ほか任期延長

#### (報告事項)

#### 1. 組織・制度改革本部会議報告 (第10回)

会員拡大目標3,000名に対して実績943名

理事選出制度は当面現行制度運用で調整入り

四役会議等の位置付け検討中(支部長、部会長会議)

#### 2. CPD証明特別委員会が目的を達成して終了

(H18年5月理事会で終了)

成果:CPD登録証明書発行、職域別技術士CPDガイドライン、産業界の業務経験評価

#### 3. 「第3期科学技術基本計画」への日本技術士会の対応

KK委員会で具体的検討課題のイメージ作り、業務委員会で検討推進体制(技術士活躍の場拡大、活用促進)

#### 3. APECエンジニアの全分野登録開始、EMFエンジニアの登録受付予定

技術分野11分野登録、

H18.3.31現在登録者:2547名

#### 4. 技術士登録内容確認調査

登録者数:56,754名 調査数:45,608名

回答:20,637名(45.2%) 変更無:17,629名(38.7%)

廃止 637名(1.4% 死亡587、廃業50)

未回答 13,675名(30.0%)

未着件数 10,659名(23.4%)

## 報告2 平成18年度日本技術士会第48回定時総会

(開催日時：平成18年6月23日)

### 【議案】：第1号議案 平成17年度事業報告及び同収支決算報告並びに監査報告

1) 出席者状況：出席者171、委任状6,528、合計6,699名 会員数11,516名

2) H17年度事業報告書

①本年度から事業トピックスを記載、CPD取り組み状況を重視し参加者数も記載

②事業トピックスとして

- 「技術士ビジョン21」の実現に向けた体制、
- 会員拡大・技術士活性化、○部門・部会のあり方、○品質確保法に係わる技術士活用の要望、
- CPD認定会員制度の発足、○JABEE認定コース選択者への技術士制度普及、○APEエンジニア登録部門拡大と登録更新、○原子力・放射線部会の新設、○技術士登録情報の最新化の調査

③九州支部の活動状況

- 第32回技術士全国大会（福岡）の報告
- 支部活動、講演会の実績報告

3) 平成17年度収支決算報告 (単位：百万円)

	当期収入	当期支出
一般会計	299.2	292.3
CPD会計	9.8	9.8
受託会計	47.5	47.5
特別会計	1,029.7	1,096.3

4) 表彰その他

名誉会員14名（九州支部2名）、会長表彰68名（九州支部5名）、

質疑は常連の技術士が同様の質問をするも特に大きなトラブルなし順調に終了。

## 報告3 平成18年度第2回理事会

(開催日時：平成18年7月13日)

### (審議事項)

1. 部門及び部会のあり方について（中間報告）

- ① 部門に関しては現状維持を基本とし、選択科目は今後詳細な検討をすすめる。
- ② 部会は部門と1:1、支部と部会は縦糸・横糸の関係だが部会運営を全国レベルでおこなうのは困難

2. CPD「文書登録」会員の認定手数料について

H20年2月まで：

WEB登録は無料、文書登録は¥2,000

H20年3月から：

WEB登録は¥3,000、文書登録は¥5,000

3. 技術士CPDガイドブック（第4版）の発行

H16年発行「第3版」に下記項目を加えて改訂。

H18年7月に発行、即刻切り替え可

- CPD登録証明書発行、• 産業界における業務経験の追加、
- CPD認定会員制度の追加、• CPD重み係数の見直し

4. JABEEへ技術士会からの派遣委員を推薦（3名推薦：弘中、小西、佐々木各先生）

5. 実行委員会委員の継続再任（再任延長限度はH19年6月まで）

中小企業交流委1名、業務斡旋実行委1名、海外業務促進実行委3名。

いずれもH13年7月から継続しており、任期2期4年を超過している。

6. 委員会委員の異動（九州支部関係のみ）

業務斡旋実行委員会：

松尾憲一先生⇒大里信義先生

### (報告事項)

1. 理事選挙方式及び役員選挙関連規則の整備

理事選挙投票方式：当面は現行方式を継続するが、公益法人制度改革への対応から必要な時期に見直す。

選挙関連規則の整備依頼事項（事前運動、過剰広告他7項目）は個々に対応する。

2. 「組織・制度改革本部」の終了について（H18年6月）

ビジョン21に基づく改革本部の任務終了でH18/6で終了し、常設委員会で引き継ぐ。

3. 技術士会とNPO団体との関係のあり方についての最終報告

NPO活動の現状、公益法人改革の方向との関連、具体的な支援・推進方法を整理

4. 技術士第一次、第二次試験申し込み状況

第一次申込数：40,685名（▲3,800）

第二次申込数：25,912名 総合5,587名（同じ）

5. 常設委員会等報告（政策委員会他）

①公益法人制度改革への対応；基本事業検討小委員会：定款改訂検討

当会の目的を「共益」から「公益」を主体⇒文科省は柔軟思考を指導、「共益」も残すべし

②代議員制度；H19定款変更の予定で検討中

会員数が11千人を超えたこともあり、円滑な運営と選ばれた代議員による会運営の活性化を図る

### ③都道府県単位の地域組織の設置

H19年度に定款変更し地域組織の設置が可能となる

④入会手続き：個別規則へ、J A B E E 認定者の準会員

## 6. 会員拡大・技術士活性化推進委員会

会員名簿確認結果、最高齢者は129歳であることが判明した、登録事項の確認を推進する。建築士法

改正の状況待

## 7. 会員等の入退会状況

H17年度入会者942名、退会者428名（会費未納者の再入会への配慮が必要）

8. シンボルマークの改定を正式に開始：基本事業検討小委員会⇒青年技術士交流実行委員会

9. 九州支部と北海道支部は連携をとりながら、センター会を廃止し、技術士会支部に統合する。

# 政策委員会（概要）報告

政策委員会委員 小出 剛（農業・福岡）

## I. 主な経過

本委員会では、先の『技術士ビジョン21』に基づいて決定した『組織・制度改革への行動指針』を受け、①基本事業検討 ②代議員制度検討 ③地域組織検討 ④定款等諸規定検討の四つの小委員会を立ち上げ、これまでの委員会毎、本委員会（3時間）の前・後に小委員会（2時間）を毎回開催している。

第1～10回までの政策委員会については、これまでの会誌で報告済みに付き、今回は第11回（06.05.25）、第12回（06.06.29）委員会の概要報告を致します。

## II. 第11回政策委員会（平成18年5月25日）

### 1. 委員長挨拶

5月11日の理事会で、「平成20年4月から施行される公益法人制度改革における日本技術士会の対応として、『公益社団法人』を目指す事とする」と決定されたが、これは政策委員会原案でもあり、全ての基本としたい。

### 2. 基本事業検討小委員会の報告と質疑

(1) 基本事業内容の検討（公益法人改革と関連した基本事業等の検討について、目下検討中）

#### 1) 技術士会の目的と基本事業の関係

基本事業項目として、①技術者倫理、②継続的専門能力向上、③若年技術者教育・育成、④国際交流等の10項目を挙げ、これを技術士会で積極的に推進する事により、「求められる技術士像の自他共理解」「技術士重視をすべき社会の価値観保持」を促進する事が最終目標としている。

#### 2) 基本事業項目とそのねらい

前述の10項目について、公益性に寄与するため、それぞれ具体的な活動内容と推進方法案を作成し、検討中。

(2) 日本技術士会シンボルマークについて

当会HPの「ご意見募集」コーナーに趣旨を掲載し、広く会員から改定の是非、希望内容等について意見を求める事とした。

### 3. 代議員制度検討小委員会の報告と質疑

(1) 役員選挙制度検討の結果

①当面、現行制度を継続する。②公益法人制度改革等から大幅な当会の基本制度変更の場合は再度検討する。③6月政策委員会で成案、7月理事会に諮る。

### 4. 地域組織検討小委員会の報告と質疑

(1) 今後の地域組織検討の進め方

①支部管轄下の県組織と関東甲信地域の県組織は区別して検討。②当面、関東甲信地域の県組織についての検討を先行。③県組織の定款については定款検討小委員会で検討する。

(2) 関東甲信地域の県組織検討の主要課題

①具体的設置基準の策定、会員の最小規模等、役員選出、事業実施体制確立等。②会からの交付金等財政支援のあり方、自前の財政裏付検討等。③業務契約権限の一部委譲可能の仕組み。

(3) 県単位組織についての基本的考え方

①設置条件が確認された県から検討し、一斉には行えない。②会員所属のあり方、住居・勤務先別等。③会費徴収方法等。④協賛会員制度等。

### 5. 定款等諸規則検討小委員会の報告と質疑

(1) 会員推薦状規則（案）の検討（省略）

## III. 第12回政策委員会（平成18年6月29日）

### 1. 委員長挨拶

①J A B E E 終了卒業生に対する関わり方を積極的に検討したいと、四役会議等であった。

しかし一方で、修習技術者支援のボランティア限界も話題になっている。

②会長から、技術士法制定50周年にあたり、「技術士を考える会(仮称)」等の記念シンポジウムを実施したい、との意向表明があった。

## 2. 文科省と政策委員長の意見交換について

6月14日、文部科学省基盤政策課企画官ほかと永田委員長・竹下専務理事とで、「日本技術士会の定款変更に関わる当面の課題について」打合せした内容報告があった。

### (1) 公益法人制度改革への対応について

①「公益法人認定」を目指す事と事業内容公益性の問題点。②公益的事業実施の上で、会員会費のみでは限界あり、外部資金依存の必要性もあるので、具体案策定の時点でアドバイス願いたい。(委員長)

③新法施行時に即「公益認定」申請を行うために、定款変更認可を先行して頂く方向で文科省の了承を得た。事前の綿密な打合せを要する。

### (2) 代議員制度導入について

必要性は認めるが、省内でも他の部局とも確認する。(文科省)

### (3) 都府県単位での地域組織設置について

①県単位組織に対し、何らかの財政支援する事になれば、会の財政圧迫にならないか。(文科省)

②現在の県技術士会の要望にも沿った計画であり、一定以上の会員数を擁する県から実施し、会員増加を考慮しつつ活発な活動地域を厳選して行くので、設置可能地域は少ないと考える。(委員長)

その他省略

## 3. 基本事業検討小委員会の報告と質疑

### (1) 公益性の問題について

①文科省との打合せを踏まえ、共益を再考する。  
②「公益法人認定」のためには、全体支出の50%以上の公益が必要であるが、指定試験事務が公益事業に含まれるか否かが鍵を握る。

### (2) シンボルマークについて

①HP等で意見聴取中。②政策委員会としては極力、青年技術士交流実行委員会に任せたい。

## 4. 代議員制度検討小委員会の報告と質疑

### (1) 理事選挙投票方式について

①当面、現行制度を継続する(現行理事定数30名を前提、各部会から最低1名選出)  
②公益法人制度改革等から大幅な当会の基本制度変更の場合は再度検討する。  
③上記①②を基本として、7月理事会に諮る。

### (2) 代議員制導入に関わる事項

①経過については、18年1月理事会に中間報告した

とおり。案については過去に概要説明済み。

②今後の検討の進め方として、支部長会議・部会長会議での意見聴取や、HP・月刊誌による概要説明を行い、HPによる意見聴取を行う。

③19年6月の定時総会での承認を目標とする。

## 5. 地域組織検討小委員会の報告と質疑

※委員会前の小委員会に神奈川県技術士会小川会長を招請し、活動の現況等を聴取し、質疑応答を行った。活動の大部分はコンサルティング・エンジニアとしての業務実施であった。

### (1) 今後の地域組織検討の進め方

①支部管轄下の県組織と関東甲信地域の県組織は区別して検討する。②当面、関東甲信地域の県組織についての検討を先行する。③県組織の定款については定款検討小委員会で検討する。

### (2) 関東甲信地域の県組織検討の主要課題

①具体的設置基準の策定、会員の最小規模等、役員選出、事業実施体制確立等。②会からの交付金等財政支援のあり方、自前の財政裏付け検討等。③業務契約権限の一部委譲可能な仕組み。

### (3) 県単位組織についての基本的考え方

①設置条件が確認された県から検討し、一斉には行えない。②会員所属のあり方、住居・勤務先別等。③会費徴収方法等。④協賛会員制度等。⑤日本技術士会の一部組織としての制約あり(収益事業が全事業の過半数を超えない事等)

## 6. 定款等諸規則検討小委員会の報告と質疑

### (1) 委員会規則の検討について

規定整備検討の基本方針として、①委員会全体の細則 ②委員会としての共通規則 ③個別委員会ごとに独自規則、の3層の体系に再整理を行う。

## IV. 定時総会(6月23日)パーティー

定時総会、パーティー等に出席しましたが、九州から名誉会員となられた政野光男先生もご一緒に都丸会長、是永理事と記念写真を撮りました。



(左から、小出政策委員、是永理事、都丸会長、政野技術士)

# 平成18年度第1回支部長会議報告

九州支部長 光岡 毅 (建設・福岡)

1. 会議開催日時及び会議場所：平成18年6月28日 13：00～17：00 葺手第2ビル5F会議室
2. 会長挨拶：技術士の社会進出、偽装事件による技術批判にCPDの徹底等により払拭すべき。
3. 支部議題：(従来本部報告を先行して次に支部議題を取り上げていたが今回は順序変更する。)
  - 1) 北海道支部の支部総会及び支部40周年記念行事を行った。特に、今回は、センターを支部に統一することを重視する行事とした。——九州支部も後追いするので情報の提供を求めた。
  - 2) 近畿支部は第3期科学技術基本計画に関連する活動を計画。PL法施行10周年記念行事で弁護士会に協力
  - 3) 東北支部CPD記録の利便性向上についてシステム作りを要望した。関連学会とのCPD重み係数を含めた相互承認、(土木学会で他の機関のCPDは1/2にしか位置づけがされない)、カードリーダーの採用(本部で検討中)、建設系以外の相互承認に促進——工学会でPDE委員会での動きがある。
  - 4) 九州支部 額の高い講師に対する予算上の対応の要望。近畿支部は、支部会員に応じ頭打ち60万円の増額要望。
  - 5) 中四支部 支部事務の運営規則・決済規程の統一制定を要望。
  - 6) 九州支部 修習技術者支援の支援体制の整備を要望。——技術士法の改定によって新たに生じたもので技術士会費から支出するべきものでなく文部科学省で何らかの予算化すべきものか。今後本部でも議論する。
  - 7) 近畿支部 会員名簿について、新規合格者等の情報は本部どまりで支部に下りてこない。会員増強・支部行事への情報の提供に支障をきたしている。——特に会長は事務局に個人保護法の趣旨を踏まえ支部に提供するよう強く発言した。
  - 8) 次回支部長会議 中四支部が担当で松山市で開催する。
4. 理事会報告
 

是永理事に理事会の議事、及び小出政策委員に政策委員会の議事の報告にゆだねる。
5. 選挙制度について
 

これまでの意見を集約して次回の理事会に挙げる。(これまでどおりとする意見が多い。)
6. 平成18年度一次二次試験合格者歓迎会について(状況報告)
7. 文部大臣表彰者等の推薦について(これまで例がないが検討してみよう)
 

黄綬褒章、紫綬褒章、藍綬褒章
8. 第33回技術士全国大会(創立55周年記念大会)について(多く出席を)(広告収集は全うした)
9. 支部会計説明会及び意見交換会報告
10. 2006年FIDIC年次大会への参加(ホームページ参照)
11. 最新の公益法人行政の動向と公益法人制度改革について
12. 技術士法制定50周年記念シンポジウムについて
 

技術士法制定50周年記念を機に、技術士法について考えよう。支部単位に産官学シンポジウムを開き、例年夏位までに本部に集約する。

## 会員情報の問合せ

昨年から会員名簿発行が中止になり、会員情報の問合せは、次のようになりました。

- 支部会員**：①本部コンピューターの「会員情報DB」の利用  
アクセスの方法、WEB名簿の利用等については、月刊「技術士」(2005年10月号 P30)をご参照ください。
- ②所属の部会長(第7部会を除く)か、所属の地区代表幹事に問合せ下さい。
- センター会員**：①所属の部会長(第7部会を除く)か、所属の地区代表幹事に問合せ下さい。

第1部会長	黒江浩
第2部会長	佐竹芳郎
第3部会長	和田洋二
第4部会長	小宮信行
第5部会長	小出剛
第6部会長	松浦茂雄
福岡地区代表幹事	針貝武紀
北九州地区代表幹事	長崎治夫
佐賀地区代表幹事	藤永正弘
長崎地区代表幹事	大橋義美
熊本地区代表幹事	加来雄一
大分地区代表幹事	吉良文至
宮崎地区代表幹事	新城精一
鹿児島地区代表幹事	竹元幹生

## 「九州支部総会及び第1回合同役員会」の開催報告

総務委員長 中村 勲（建設、総合技術監理・福岡）

平成18年5月27日（土）に、平成18年度九州支部並びに九州技術士センターの第41回定時総会を福岡商工会議所で開催致しました。

当日の会員出席状況は、支部会員等1084名のうち出席会員71名、委任状提出541名、合計612名。またセンター会員等505名のうち出席会員15名、委任状提出265名、合計280名。これら会員等の出席を得て、支部規則及びセンター定款に定める必要定員数を上回り、定時総会は成立致しました。

最初に光岡支部長からは「主要な支部活動及び支部活動の今後の提言」を主旨とした挨拶があり、小出センター会長からは「九州支部と九州技術士センターとの統合の必要性とその課題」を主旨とした挨拶がありました。今回の討議議題は、平成17年度活動報告と平成18年度活動の主旨（骨格）を定めたものです。

議題審議に入り、第1号議案「17年度会務及び事業報告」（会務報告・地区事業報告・委員会事業報告・部会事業報告）、第2号議案「17年度収支決算及び監査報告」（九州支部及び技術士センターの財産目録・一般会計・特別会計並びに監査報告書）、第3号議案「18年度事業計画（案）」、第4号議案「18年度収支予算（案）」、第5号議案「九州技術士センターの支部への一体化」について議題毎に審議し、全議題が拍手多数で承認されました。

総会の課題としては、平成18年度予算（案）が事業計画（案）に対して予算額が厳しい事であり、又、九州技術士センターの支部への一体化については、現在の九州における日本技術士会九州支部と技術センターの二本立て組織運営について再検討すべき時期に来ており、その対策が求められている事です。

次に平成18年6月24日（土）に、平成18年度九州

支部並びに九州技術士センターの第1回合同役員会を博多パークホテルで開催致しました。当日は支部長・九州技術士センター会長の他に一火役員並びに各地区幹事、各委員会、各部会役員の方々に出席して頂きました。最初に光岡支部長から「今年度の事業計画（支部・センターの活発化や日本技術士会への会員増加計画）」に沿った挨拶があり、センター会長からは「財政の健全化及び九州技術士センターの支部への統合について」を主旨にした挨拶がありました。

今回の合同役員会の目的は、5月に開催した定時総会で決定された骨格となる18年度事業計画（案）・実行予算（案）に具体的な肉付けを行うことです。

議題審議に入り、第1号議案「支部並びにセンターの事業計画（案）について」

（活動方針及び実行予算）、第2号議案「地区事業計画（案）について」（北九州地区等の事業計画）、第3号議案「委員会事業計画（案）について」（試験管理委員会等の事業計画）、第4号議案「部会事業計画」（第1部会等事業計画）、第5号議案「支部・センターの一体化について」（平成19年度から支部・技術士センターの一体化を行い、当年度はひとまず支部協賛会員制度を創設し、会費の平準化を図る）について、議案ごとに審議されました。白熱した議論の中で予定を1時間オーバーし、全議題が拍手多数で承認されました。

合同役員会の課題としては、支部全体の実行予算額が不足しており、講習会等による収入増とコスト縮減方策により運営して行く事。技術士センターの支部一体化に対する今後の取り組みは、支部・センター役員はもとより各地域代表幹事なども含め、一層努力して一体化を進める方策が必要な事です。

### 新名誉会員・会長表彰おめでとうございます。

- 平成18年度の新名誉会員に九州支部から次のお二人がなられました。  
川崎 迪一氏 政野 光男氏
- 平成18年度の会長表彰を九州支部から次の5名の方が受けられました。  
泉 館 昭 雄 氏 大 橋 義 美 氏 齊 藤 建 男 氏  
松 浦 茂 雄 氏 内 山 順 治 氏

# 平成18年度第2回九州支部CPD（A部門）報告

CPD委員 西井 康浩（建設・北九州）

㈫日本技術士会九州支部CPD委員会主催による平成18年度第2回九州支部CPD（A部門）が、7月22日（土）に福岡建設会館で開催されました。今回は、一般共通課題（A）から、【A-3、4、10】に相当する計4つの演題（全6単位）を設けました。なお、当日は、120名近くの参加者を集めるCPD講演会となりました。

演題項目および講演内容は、次の通りです。

## ①『協働のまちづくりとコミュニティ形成』

十時 裕氏（(株)アーバンデザインコンサルタント取締役営業部長）、【A-4】

## ②『地球温暖化を含む気象変動と海岸防災について』

橋本 典明氏（九州大学大学院工学研究院環境都市部門教授、博士（工学））、【A-3】

## ③『イラクにおける人道復興支援』

服部 静氏（陸上自衛隊第四師団第16普通科連隊第3科長、3等陸佐）、【A-10】

## ④『国際社会の理解～援助の推移と動向を通じて～』

藤田 廣己氏（(独)国際協力機構、九州国際センター、調査役）、【A-10】

講演①では、講演者らが立ち会われた防災システムの整備やアメニティ施設の計画を通じて、コミュニティづくりの難しさや重要性のご説明をいただきました。行政と地域市民が安心・安全で快適なまちづくりを目指す際には、ワークショップを活用したコミュニティ目標プランづくりが大変有効であるとのことでした。また、同氏の講演は、カードを使ったワークショップの技法が取り入れてあり、聴講者を飽きさせないものでした。



講演会の様子

講演②では、地球温暖化の影響による気象災害、特に台風の巨大化とそれに伴う高潮、高波がもたらす沿岸域の問題について、何が起こるのか、それをどう防げばいいのか、豊富な研究知見と高い学術的見地から、貴重なご意見を賜りました。特に最近では、高精度の数値モデルが簡単に使え、50年、100年先を予測するシミュレーション技術に驚きました。九州大学では、産学協同の研究を受け入れているとご紹介もありました。

講演③では、今日的な話題として社会の注目を集めていますイラク復興支援策の一つ、自衛隊の人道支援について、支援部隊の責任者として活躍された講演者から、現地での活動報告を受けました。緊迫したリスク管理下での隊員たちの勤務態度や生活ぶりは、一般にわれわれが目にするマスメディアからの報道とは違い、とてもリアリティーに富むものでした。このような状況下で隊員以外の技術者（士）がどのように協力できるか、まだ未整備の分野ですが、問題提起として有益なご講演でした。

講演④では、開発途上国への技術協力の実施機関として組織された国際協力機構で長年ODAに携われた講演者より、これからのODAのあり方について、率直なご意見をいただきました。現在、援助する側と受ける側にはODAに関する義務化と既得権益化が進み、双方に援助疲れが見られるそうです。開発援助をめぐる今後の動向として、本当の自立を支える援助とは何か、政府と国民が一緒になって考えることが肝要のようです。

今回の4つの講演は、異業種からの情報提供という点で、非常に面白い内容でした。



講演①会場でのワークショップの様子

# 業務開発委員会報告

業務開発委員長 大里 信義（化学、総合技術監理・北九州）

去る平成18年7月18日支部事務室において業務開発委員会が開催された。その中で支部の財政状況その他の情勢の変化を勘案して平成18年度の業務開発委員会の運営について審議がされ、次のように行うことになった。

1. 業務開発委員会のミッションは九州支部技術士会正会員の求めに応じて次の業務を開発することであるとする。

- ①技術士として正当な報酬を得られる業務。
- ②技術士としての能力の向上に資する業務。
- ③技術士として社会に奉仕することを支援する業務。

2. 業務遂行の条件を次のようにする。

- ①顧客満足を第一に考える。（業務の品質、コスト、納期を守り顧客の期待に応える。メンバー各自の不誠実が技術士全体に影響する）
- ②技術士法を遵守する。技術士としての尊厳を保つ。
- ③会員に対する透明性、アカウントビリティを確保する。

3. 事業活動の目的又は結果の期待を次のようにおく。

- ①技術士会の認知度が上がる。業務獲得がやりやすくなる。
- ②技術士のステータスが向上する。
- ③会員技術士の満足度が向上する。

4. 業務開発委員会の戦略、方針の策定は次のように行う。

- ①常任委員会で原案作成
- ②業務開発委員会で検討、承認（メールによるものも含む）。

5. 業務開発委員会の活動は会議を通じて行う。会議の行い方は次のとおりとする。

- ①委員会は原則月1回開催、原則第3月曜日17時30分より約2時間。  
議長は委員長、不在のときは池田義實副委員長とする。
- ②書記は白井 堯幹事、会計は末松正典副委員長とする。

③メンバーは常任委員と特命委員に分ける。

常任委員は委員長（大里）、副委員長（池田義實先生、末松正典先生）、幹事（白井 堯先生）、支部事務局長（松尾憲一先生）とする。

特命委員は泉館昭雄支部顧問、伊藤整一支部CPD委員長、小出剛本部政策委員、是永逸生本部理事、斉藤清美先生、棚町修一支部広報委員長、光岡毅支部長、宮田守次本部海外業務促進実行委員とする。

④通常出席者は常任委員としそのほかの出席者については議題に応じて特命委員の中から委員長が1週間前までに指名する。

⑤上記委員会の他、メールによる相互連絡、打合せなどは随時積極的に行うこととする。（各委員は、旅行など特別の場合を除いてできるだけ毎日メールを見ること）

6. 議題

①議題は原則各委員から10日前までに委員長と幹事にメールで提案する。幹事は委員長と相談の上正式議題を決めて出席者を選定し委員全員に通達する。

討議を要しない委員各自のトピックス、業務進行状況などは委員会の要請に応じて（出欠にかかわらず）メールで委員全員に報告する。

②議事は委員からの提案を検討し、アクションにつながる結論を出すことを旨とする。（委員は効率的な議事進行に心がけ、時間内にアクションにつながる結論が出せるように協力すること）

③期限内に提出が間に合わなかった議題で緊急を要するものについては、担当委員はその旨幹事に連絡し臨時の議題とする。（原則最後の議題とし時間切れの場合はその後メールで討議して結論を出し配信するか、または次回に持ち越す。）

④説明のための資料は説明委員が7部準備して会議の際に出席者に配布する。

7. 委員の担当業務

上記の目的を達成するために委員会全体（常任、特命問わず）で行動する。→各委員が担当業務を持ちそれを責任を持って遂行する。

平成18年7月時点の担当は次の通りとする。  
 (状況により変更することがある)  
 泉館顧問/海上火災損害保険技術評価鑑定、九大スーパー中核人材育成  
 池田義實副支部長/公共工事業務監査  
 伊藤整一CPD委員長/CPDに関連する業務開発(修習技術者支援を含む)  
 大里/本部業務幹旋実行委員会委員、商工会、商工会議所、企業再生協議会など  
 小出本部政策委員/JABEE、青少年アンビシャス運動、公共工事業務監査  
 是永本部理事/北九州市から出た業務(中小企業支援センター、産業博物館、土壌汚染対策)、裁判所弁護士会への働きかけ  
 斉藤清美先生/K-RIP、中小企業支援センター(県)  
 白井 亮幹事/本部業務幹旋実行委員会から出た業務全般(補助金申請評価グループ、ものづくり大賞評価、技術鑑定評価(本部長沢氏から出たもの)など)、中小企業基盤整備機構、新連携関連。  
 末松正典副委員長/IST、FVM、2月会、環境関係業務開発、業務開発委員会監査ほか  
 棚町修一支部広報委員長/広報、透明性監視

松尾憲一支部事務局長/事務局入手情報関連  
 宮田守次先生/本部海外業務促進実行委員会委員

#### 8. 紹介業務の取扱

技術士会(業務開発委員会)を通じて紹介した業務については業務開発委員会が5%の手数料を上納してもらうこととする。業務を取りまとめるためのリーダーが必要な業務についてはさらにリーダーが売上の10%を受け取るものとする。(従ってリーダーの下で業務を実施した担当者は85%の収入となる。)

業務開発委員会の収入は全体的な業務獲得のための費用等(旅費等)にあてる。

#### 9. 業務の募集

業務の募集は九州全体の技術士会正会員がアクセスできる支部のHPに掲載し、その後適当な時間経過後、各担当の委員が応募者等の中から最適と思われる業務の担当者を決定し業務の遂行に当たらせる。(但し緊急を要する業務の場合HPの掲載を省略することがある)

#### 10. 業務のレベルアップ

業務開発のための担当業務の研究会、勉強会等は委員の各自が中心となって積極的に進める。

## I T 推進委員会報告

### I T 推進委員長 木下 茂広 (建設・北九州)

I T 推進委員会では、支部から会員への情報提供サービスをより確実にを行うために情報伝達の検証を行っておりますがまだ末端まで確実に伝わっているか否か不明なところがあります。

特に、転勤や転職された方のアドレスが変更されていない状況にあります。したがってアドレスを変更された方は必ず変更を支部に届けてください。そうしないと情報が届かなくなります。

ヒエラルキー中間連絡者が大分地区と宮崎地区が交代されました。現時点では下記のとおりです。

福岡地区	
第一部会	担当 黒江 浩
第二部会(あ～え)	担当 伊藤 整一
(お～き)	担当 木寺 佐和記
(く～さ)	担当 久保川 孝俊

(し～た)	担当 桜木 靖徳
(ち～の)	担当 佐竹 芳郎
(は～ま)	担当 横尾 整司
(み～ん)	担当 木下 茂広
(応用理学)	担当 平田 和彦
第三部会	担当 和田 洋二
第四部会	担当 小宮 伸行
第五部会	担当 長野 義次
第六部会	担当 松浦 茂雄
北九州地区	担当 長崎 治夫
佐賀地区	担当 堤 茂徳
長崎地区	担当 大橋 義美
熊本地区	担当 堤 康博
大分地区	担当 冷川 久敏
宮崎地区	担当 菅 忍
鹿児島地区	担当 竹元 幹生

## 第26回地域産官学と技術士の合同セミナー(福岡)のご案内

産学官セミナー実行委員会

### ●開催趣旨

九州地域は、地理的条件により自然災害の発生が多く、過去から台風等により、地域に大きな被害を受けてきました。特に平成3年の台風19号は典型的な風台風であり、九州北部に大被害を与え、更に平成17年の台風14号は猛烈な雨台風で、九州南部に大きな被害を残しました。

九州地域の地震被害は、大分県海岸部及び宮崎県海岸部に集中し、大陸性のプレート移動に起因したものとされていますが、平成17年3月20日に発生した「福岡県西方沖地震」については、局部的に存在している活断層に起因した地震と考えられており、従来から、福岡に地震は存在しないと言われていた定説を覆す大きな出来事でした。

また、古来より豊饒の海と言われて来た有明海・不知火海では、経済活動の進展等、時代の流れと共に、明らかにさまざまな変化が生じています。

このような現状に鑑み「九州における災害社会環境を考える」をテーマにして、産官学の各分野の立場から原因や対策などを討議して頂き、国民の安全・安心に繋げて行く事は、非常に大事な事であり、誠に意義のある事だと考えています。

### ●開催要領

- 1 日時；平成18年11月24日(金) 13時～17時
- 2 会場；福岡建設会館 8F大ホール  
福岡市博多区博多駅東3-14-18  
電話 092-477-6736
- 3 主催者；(社)日本技術士会 九州支部
- 4 合同セミナー構成
  - ① 基調講演；国土交通省九州地方整備局企画部  
環境審査官 野村 正之氏
  - ② パネリスト；  
九州大学教授 真木 太一氏  
熊本大学教授 滝川 清氏  
福岡市都市整備局 部長 須川 哲治氏  
(株)福山コンサルタント監査役 山口 豊氏  
コーディネーター；  
佐賀大学名誉教授 三浦 哲彦氏
- 5 参加予定者；200人程度
- 6 参加費；3,000円(資料代等)
- 7 後援(交渉中)；国土交通省九州地方整備局、農林水産省九州農政局、福岡県、福岡市、(社)土木学会西部支部、(社)地盤工学会九州支部、(社)農業土木学会九州支部、(社)農業気象学会九州支部、(社)日本土木工業協会九州支部、(社)建設コンサルタンツ協会九州支部

## 第36回日韓技術士会議のご案内

### ●テーマ：社会開発における技術士の役割

「ものづくりの心」

### ●開催場所：ホテルロイヤルオリオン

(沖縄県那覇市安里1-2-21)

TEL 098-866-5533)

### ●日程：平成18年11月12日(日)～11月14日(火)

12日(日) 現地集合 日韓青年技術士サッカー大会

13日(月)

本会議 9:00～(会場：ホテルロイヤルオリオン)

分科会 13:00～(レディスコース並行開催)

第1 観光・環境・資源エネルギー

第2 建設と安全

第3 技術者資格と教育(倫理・CPD)

第4 英語討論(自由課題)

第5 日韓青年技術士討論(自由課題)

晩餐会 18:30～

14日(火) 研修旅行：オリオンビール工場、海洋博記念公園・沖縄美ら海水族館など

### ●参加費：本会議5,000円、晩餐会8,000円

他はHPを。

<http://www.engineer.or.jp/cmt/nyikkan/index.html>

### ●申込方法：参加希望者に申込用紙を送付します。

下記宛申込下さい。

事務局 籠原

(TEL: 03-3459-1331)  
(FAX: 03-3459-1338)

## 部会報告

### 第7部会技術研修会

#### 安全・安心な社会を築く技術

第7部会長 田辺 努（機械、総合技術監理・福岡）

第7部会では、毎年度年間テーマを設定し、そのテーマに関係する話題を奇数月に行う運営委員会で決定し、翌月に開催する定例会において討論を行っています。福岡青年技術士ネットワークとの共催で、必要であれば外部の講師に来ていただくこともあります。

年間テーマは、その時々々の社会問題、課題などを参考に決めています。ちなみに平成16年度は「産学官士連携で創造する社会」、平成17年度は「技術士が考える九州の防災対策と事後処理対策」でした。

今年度は、「安全・安心な社会を築く技術」を年間テーマとしております。本テーマを決めた理由について述べますと、耐震偽装や自社の設計・施工ミス隠蔽等の技術者のモラルに係る問題、相次ぐドアやシャッター等の挟まれ事故における安全設計及びメンテナンス技術の問題、子供をねらった犯罪等のセキュリティ問題等が多発している状況で、大きな社会問題と化しており、現在の日本は「危険・不安な社会」といわざるを得ません。こうなってしまった背景として、技術者に対する倫理教育の不足、設計者の安全設計に対する認識不足、無理なコスト低減圧力、地域のつながりの薄弱化による犯罪抑止効果低下などがあると思います。この問題については

皆さんの関心も高いと思われ、「安全・安心な社会」を築くには我々技術者はどんなことに留意すればいいのか、何ができるのかといったことを真剣に考えなくてはいけないのではということでもあります。

本テーマに沿った具体的話題として、4月26日の第一回目は、「地震後の福岡市における耐震改修の現状」という話題で、建物の耐震改修の技術に関する討論を行いました。小学校や中学校の建物も耐震改修が必要だが、未実施のところが相当数あるとのこと。私も小学生の子供の親の一人ということもあり、子供たちの安全を守るために予算を優先的につけ計画的に早急に実施していく必要があるのではと思いました。私見ですが、オリンピック招致もいいが福岡市にはそういったことを先ず確実にやってほしいものだと思います。

6月28日の第2回目は、某社のエレベータ事故が問題になっていることもあり、「エレベータ事故はどのようにして起きたのか」という話題で、メーカの専門家にも来ていただき、エレベータの構造や安全装置等の基礎知識の講義と討議を行いました。今回の死亡事故の原因はまだ調査中のようですが、私は恐らく設計上の問題、メーカとメンテナンス業者の情報共有不足の問題があるのではないかと思います。某社だけに限った問題ならよいのですが・・・。

8月23日の定例会は、詳細は未定ですが、ガス湯沸かし器のCO中毒事故が問題になっていることから、ガス機器を例にとり安全設計について討論する予定です。

関心のある方はご参加歓迎いたします。

### 支部関連会合行事

#### ご案内（10月、11月）

##### 【10月の予定】

###### ●10月21日（土）

##### 北九州地区月例技術研修会

戸畑生涯学習センター 13:00～17:00

1. 技術報告①電子機器の製造技術（仮題）・姫野 素志・機械②大分駅周辺総合整備事業の現状と大分市中心市街地の課題について・高瀬和夫・建設③卓話：未定

###### ●10月28日（土）

##### 平成18年度第3回CPD研鑽会

福岡建設会館 10:00～17:00 演題：未定

##### 【11月の予定】

###### ●11月2～3日

##### 第12回西日本技術士研究・業績発表年次大会

山口県健康づくりセンター 10:00～

###### ●11月18日（土）

##### 北九州地区月例技術研修会

戸畑生涯学習センター 13:00～17:00

1. 技術報告①下水道の計画設計・岸田徳康・上下水道・総合②未定・大里善治・技術士補(生物)③卓話：未定 2. 近況報告・自己PRコーナー 3. 会務報告、委員会報告、行事予定

###### ●11月24日（金）

##### 第26回地域産官学と技術士の合同セミナー(福岡)

(九州における災害社会環境を考える)

福岡建設会館 8F大ホール 13:00～

## 地域だより

### 福岡

#### 福岡シニア技術士ネットワークの 最近の活動について

運営委員長 真鍋 和義  
(上下水道、総合技術監理)

福岡地区及び近郊の50歳以上の技術士で構成する任意のサロンのグループとして「福岡シニア技術士ネットワーク」(F S P E)が平成12年7月22日に発足しもう6年が経過しました。会員の構成は当初は原則として50歳代としていましたが、年数が経てば皆高齢化し現在は50歳代にこだわらずに運営しています。

現在、定例会は2カ月に1回、原則として偶数月の下旬の木曜日午後6時半から九州支部会議室にて10～15名程度の参加を得て開いています。

例会の内容は福岡地区の50才以下のグループである「福岡青年技術士ネットワーク (fsgnet)」と同様に1分間スピーチ、業歴を主体としたノウフウ

(KNOW WHO)、会員によるホットな話題という構成を原則とし、CPDの一環と捉えています。例会後は近くの居酒屋で有志による飲みニケーションを行い談論風発し、有意義な時間を過ごしております。また12月にはfsgnetと共催で講演会等の開催を予定しています。

最近の例会でのテーマ等は次の通りです。

- 2月例会：17年度の活動を振り返って、また今後の運営・活動について（討論）
- 4月例会：最近の分譲マンションの設備システムの動向について  
話題提供者：和田義昭さん  
(衛生工学、総合技術監理)
- 6月例会：コンサルタントが企画運営するコミュニティ・ビジネス  
話題提供者：棚町修一さん  
(建設、総合技術監理)

会員数は名簿上は約40名程度ですが、十数名の出席に止まっており、魅力あるグループのあり方を模索しているところです。福岡地区の皆様には、我々の会へ参加いただき、盛り上げていただきたいと願っています。

### 北九州

#### 北九州地区技術士会の活動状況

幹事 寺師 政廣 (上下水道)

北九州地区技術士会では、毎月第3土曜日13時から17時まで、戸畑生涯学習センターにて、月例技術研修会を開催しています。最近の活動状況について報告いたします。

##### 1) 技術交流

研修会は技術報告2題(50分)、卓話1題(30分)を基本としています。平成16年から、県外の技術士や異業種の方にも参加していただき、技術交流を行っています。新鮮な気持ちで拝聴しております。最近の技術講演は以下のとおりです。

##### ①「日本の援助の歴史とJICAの役割」

平成17年12月

笠原英昭氏 (JICA九州・所長)

##### ②「地中熱利用冷暖房システム」平成18年4月

大坪克也氏 (一級建築士)

##### ③「揺動床厨房廃水の生物学的装置の開発とその性能」平成18年5月

村谷俊雄氏 (工学博士、大分地区・化学)

##### ④「日本人技術者魂のビジネス感覚と、海外諸国での庶民感覚」平成18年5月

坂井純氏 (九州大学名誉教授)

##### 2) 金属部門安西先生博士号祝賀会

(平成18年8月19日)

8月度の月例技術研修会では、金属部門の安西先生が、「淡水環境におけるステンレス鋼溶接部の微生物腐食」で九州工業大学から博士号を授与されましたので、記念講演会を実施しました。

講演内容は、以下の2点に関するもので、今後、各方面から診断・調査票に対する要望や意見を吟味して、ステンレス鋼のMIC診断・評価に適用できるものにしていきたいということでした。講演会は多数の方が参加、盛会で有意義なものとなりました。

- ① ステンレス鋼製溶接構造物の淡水環境における微生物腐食事例の解析結果と特徴
- ② ステンレス鋼の微生物腐食診断・評価の基準の策定

## 佐 賀

### 「トライアル発注」に見る 佐賀の新技術

NPO法人技術交流フォーラム

広報委員 福島 裕充（建設）

先日、佐賀県庁のホームページを閲覧していると「トライアル発注」という文言が目を引きました。「トライアル発注」とは県内の中小企業等が開発した製品等について県が試験的に発注し、その有効性を評価して実績をつくることで販路開拓を支援する制度です。

佐賀県は、全国に先駆け平成15年度から実施してきた成果として、H15年度27品目、H16年度21品目、H17年度25品目、合計73品目を選定し、現在H18年度分を募集中とあります。

選定製品を見てみますと、我々の日常生活用品あるいは周囲環境に適用されるような物が大多数をしめており、大それた世紀の大発明とはいきません。しかし逆に、身の回り品が多いと言うことは、利用頻度が高く関心も得やすいことから一般市民の支持

を得られれば企業の業績拡大に繋がる可能性が大きく開けてきます。

選定製品のなかで目を引いたのは、「酸化チタン」を利用した新製品です。ご存じの方が多いと思いますが、酸化チタンは太陽光や蛍光灯の紫外線によって化学反応を起こす触媒で、光励起により酸化分解作用を発揮し、酸化チタンそのものは触媒であることから劣化せず、付着している限り永続的に光触媒機能を発揮し続けるすぐれものであります。この作用を有効に引き出す酸化チタンの水溶液化技術が佐賀県窯業技術センターで発明されたことを契機に、多方面での製品開発に繋がったと言うことです。まさに産・官連携の傑作といえるのではないのでしょうか。

用途としては、防汚・脱臭・防カビ・抗菌・大気浄化・有害有機物分解・水質浄化等、広範囲で使用可能であるとのこと。車の汚れに悩まされている方、風呂のカビに困っている方、家の外壁をいつまでもきれいなままにしておきたい方、一度考えてみませんか？

佐賀藩は、幕末・明治初期にかけて日本の先駆的役割を果たしてきました。もう一度その実績を復活したいものです。

## 長 崎

### 平成18年度の活動計画について

地区代表幹事 大橋 義美  
（建設、総合技術監理）

平成18年度の通常総会を6月9日、諫早市に於いて35名の出席で開催しました。

本年度は、情報の提供と研修会の活発化、そして会員の増強を重点に取り組んで行きます。

先ず、情報の提供については年4回発行の機関紙と本年度開設したHPの充実です。これらを通じて会員間の情報交換を積極的に行っていきたい。

このためには、現在104名の会員で20～35名程度の参加である総会や研修会出席者の増員も必要です。

次に、研修会の活発化については、県全体として開催していたものに加え、会員がより参加しやすいように「ミニ研修会」として、佐世保を中心とした県北、長崎を中心とした県南の夫々の地域での開催を計画しています。将来は月例など定期的な研修会

に発展することを期待しています。

この「ミニ研修会」の実施に当っては、特に若手の会員に企画からお願いして行く計画です。又、テクニカルツアーとして現場研修会を計画しています。本ツアーは宿泊での見学会として、観光や懇親会等も兼ねればと考えています。会員同士がお互い顔を合わせ、情報交換などを行っていくことが会の活性化のためには先ず重要と考えています。

日本技術士会会員の増強については、長崎地区の登録技術者（18年3月31日現在の支部資料を参考）が約170名、既会員が57名で入会率33%です。センター会員が19名であり、全員入会して頂ければ合計76名、入会率45%となりますので、センター会員のみでなく未加入の技術士の方々へは本稿を借り入会を検討して頂くようお願いします。

「技術士ビジョン21」における目標組織率は、50%でありこれを達成するためには、先ず身近にある県の技術士会を魅力のあるものにして行く必要があります。これの実現のために、会員全員が積極的に諸活動に参加して頂くことが必要である旨、役員会や総会などで話し合っているところです。

### I

## 三方良し

竹内 良治(水道、建設、衛生工学、総合技術監理・北九州)

昨年末、禁煙二周年のご褒美に「アンコール」観光に誘われた。旅の師匠曰く、直行便は珍しく、価格も正月にしては格安だそうだ。正月休みを持って余す余は即OKした。あのポルポトが22年君臨した国を是非観たかった。事前勉強すると、カンボジアの一人当たりのGDPは\$280と最貧国レベルに留まっていた。また、遺跡拝観料が\$40/3日とは遺跡保存のため結構な額である。タージマハールの外国人拝観料が\$100から見ると妥当である。

目的地アンコールはNHKで何度も放映されている。概説すると首都プノンペンから北西200kmでメコン川の遊水池トンレサップ湖の北にあり、シュムリアップ空港が玄関口である。遺跡は9世紀頃からのヒンズー教遺跡群でその数は数十あり、二大遺跡がワットとトムである。ワットは上座仏教の寺院として現役である。

12/29、カンボジア航空チャーター便で15時発のところ、1.5時間遅れで出発。恐ろしく古い機体で、無事目的地に着くか不安になる。260人乗りのエアバスに空席は皆無であった。機内食は半解凍のココナツミルクカレーと常温の飲み物で、まずかった。まもなく到着のアナウンスがあり、下界に眼を凝らしたが、漆黒の闇である。理由は電気がないためであった。タラップを降りて、歩いて空港ビルに到着、天井扇だけでエアコンなし。2時間遅れの晩飯を済まし、莫睡。飲料水はボトルしかなく、ホテルのボトルはクレゾール臭で飲めず、以降現地ビールより高いエビアンに頼った。電気につづいて水道もない。このツアーは17人で、この中に20前後と30半ばの女性二人、30才位の男の3人組がいた。その正体は旅行社の社員でこのツアーの視察出張であった。ツアーは突発事故が当たり前の業で、リスク管理の点で興味があった。まず、今回の直行ツアーは大手K旅行社が現地飛行機をチャーターし、半数分を他の旅

行社に分け売りし、リスクの分散を図った。暦正月を祝うのは日本だけであり、外国には正月特別料金がなく、正月海外旅行は旅行会社の特別利益となる、という講釈があった。

翌30日、この日は最も古い遺跡の見物で、昼食と昼寝はホテルに帰り、夕方再訪する楽なパターンであった。しかし、旅行社社員の解説によると、観光と食事は右肩上がり原則とし、あとになるほど豪華にしている。そのとおりであった。

現地ガイドは28才の男性で日本語が非常にうまい。彼の生立ちに興味を持ったので詳しく聞いた。ポルポトが76年に実権をとり、78年まで殺戮が続き、79年に下野し、内乱となる。そのさなかの77年に生まれた。物心ついた時から、ポルポトは98年に死ぬまで恐怖の的であった。特に14歳(91年)で政府軍に徴用され、少年兵としての7年間は生きた心地はしなかったそうだ。21才で除隊し、日本語の勉強を現地で1年間、さらに日本で2年間勉強し、現地の旅行社のエージェントとなった。

31日の目玉は大寺院から夕日見物で、こんな夕日を見ると西方浄土も信じられてくる。途中の狭い門をバスで通過するとき、ガイド曰く、運転手は元戦車運転手であり、安心してくださいと。元旦はアンコールの初日遥拝となり、これも頭上にさそり座が輝き、時間とともに紫雲、橙雲、日の出とすばらしいショーであった。遺跡見物中になんと傷痕軍人の演奏があり、一瞬、昭和30年の神社参りにタイムスリップした。

2日の午後、空港出発となった。到着時は夜でも見えなかったが、狭い滑走路一本のみで誘導路がない。滑走路の端まで行くと丸い広場があって、そこでUターンし、離陸した。下界をみると、草原であった。確か、アンコールは密林の中で発見されたはずであったが、密林はポルポトの軍資金のため密輸された。代わりに地雷草原が残された。遺跡に残る弾痕も痛々しかった。離陸後、メコン川が近くなると、写真で見た空爆の痘痕面の窪地が一面に広がっていた。改めて、平和の尊さに手を合わせた。

今回のツアーは旅行社(売手)、現地(世間)とも潤い、参加者(買手)も大いに満足でき、正に三方良しを実感できた。

## Ⅱ

# 今、思いめぐらせば・・・

大島 祐二（建設・大分）

### 1. はじめに

この度、当会に入会させて頂きました36歳の新米技術士です。

入会間もなく、当会誌の執筆依頼を頂きまして誠にありがとうございます。しかし、いざその内容を思い描いたところでご紹介できるような華々しい経歴や貴重な体験、または今後の具体的な活動目標などの持ち合わせがあらう筈もなく、早々と窮地に追い込まれてしまいました。そこで今回は、当テーマにあります“悩み”に焦点をあて、土木に携わってきた過去13年間のうち、土木の本質に触れた現場勤めの時期を振り返りながら、現在の心境の変化を語りたいと思います。

### 2. ひとむかしを振り返って

1994年9月某日。夏日となったこの日の夕刻、「仕上げのほうき目作業は、俺と〇〇さんとの競争だ！」との所長の一声から始まりました。早朝から開始された橋梁上部工のコンクリートの打設作業が終盤を迎えようとしていました。作業員数十人の喝采の中、幼子の様にはしゃぐ所長とちょっと困惑気味な世話役さんとのその競演が妙に滑稽で目を惹かれ、心地よい疲労感を味わいながらしばしその様子に見入っていました。その競演が終演を迎えるにつれ、一日の苦勞からやっと解放されるという安堵感とともに何故か物寂しさを強く感じたのでした。この職業から離れることを考え始めた最初の瞬間でした。

大学卒業後、土地勘のある地域に暮らしたいとの思いから地元の建設会社に入社しました。ところが思惑とは裏腹に、赴任先は岡山県内の高速道路の建設現場でした。高速道路を建設するという使命感と希望に満ちた当初の志は、過酷な職場環境の前に、みるみるうちに消えていったのです。猿や鹿が出没する山里での飯場生活を強いられ、祝日・休日返上は当たり前、日が明るいうちは現場に張り付き、日が暮れてからは深夜におよぶ書類の作成、大雨や台

風による土砂災害発生の恐れがあれば徹夜の巡回と土嚢づくりに追われました。まさに3K（きつい、きたない、きけん）を代表する職場環境に翻弄され続け、ある種のトラウマを背負ったまま、この現場の竣工祝いの酒席が別れの席となったのでした。

### 3. そして今

職場環境を変えたいとの一心から、地元の建設コンサルタント会社に再就職しました。今年で11年目を迎え、土木技術者としての幅も出てきたように思えます。数年前から生活スタイルを確立することを目指し、朝7時の出社と夕方6時の退社を心がけ、それによって得た余暇を十分に活用しています。資格取得もそのうちの一つです。家庭では、親子のふれあいを大切にすると子煩悩な父親のつもりです。職場環境の変化は、人生の全てをも一変させたのです。

しかしここ最近、あの現場のことが妙に気に掛かるのです。思い出されるそれら一つ一つを慈しむように回想するのです。どうしてこの時期、このような感情が蘇ってきたのでしょうか。ただ、懐かしんでいるのでしょうか。

子ども達が夏休みに入りました。去年は試験勉強に追われたため、子ども達とのコミュニケーションが不足しました。今年は家族旅行に努めるつもりです。できればあの現場を再び訪れ、このわだかまりの原因を捜し求めてみたいのですが・・・。

### 4. これから

土木業界を取り巻く環境は、これから先も目まぐるしく変化していくことでしょう。どのような“かたち”で土木に携わることになるのか定かではありませんが、“初心をわするべからず”を信条として、これからの進むべき道を模索したいと考えています。

#### 気軽に原稿をお送りください

「技術士だより」から、技術士の皆さんの気持ち溢れて、生き活きた息吹がほどばしるようにしたいと思います。それで「声の広場」の原稿をお送りください。例えば、

- ①なぜ技術士になったのか。
- ②技術士になって判ったこと（よかった点、足りない点、意外だったこと。etc.)
- ③技術士としてこんな仕事をしたい。
- ④いま、仕事のうえで悩んでいること。

この他にいろいろあると思います。お気軽に書いてみてください。原稿は1,600字程度。送り先は支部事務局。FAXかE-mailで、どうぞ。

# 会員ニュース

## ☆(社)日本技術士会(九州支部) 入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
鹿児島	正会員	江崎 秀司	機械	鹿児島工業高等専門学校機械工学科
福岡	正会員	新井 昌成	建設	昭和地下工業機技術部
福岡	正会員	大堂 伸二	建設	アジア航測株九州支社九州コンサルタント部
福岡	正会員	坂本 信一	建設	東邦地下工機機工事部
福岡	正会員	瀧口 克己	建設	大和コンサル株福岡営業所
福岡	正会員	辻 勝也	建設	助九州環境管理協会
熊本	正会員	寺田 利博	建設	五洋建設株九州支店熊本営業所
福岡	正会員	都地 正登	建設	日本国土開発株九州支店安全品質環境課
福岡	正会員	中田 敦也	建設	日本振興株
福岡	正会員	原 正広	建設	(株)九州地方計画協会業務第一部
佐賀	正会員	福島 裕充	建設	西日本総合コンサルタント株技術部
福岡	正会員	星田 和彦	建設	(株)九州地方計画協会
福岡	正会員	松木 重夫	建設	株NIPPOコーポレーション
福岡	正会員	森 将彦	建設	(株)九州地方計画協会
福岡	正会員	吉海 達	建設	エヌ・ティ・ティ・インフラネット株熊本支店
福岡	正会員	加藤 晃一	上下水道	福岡県建築都市部
福岡	正会員	高木 誠	上下水道	福岡市役所下水道局河川部
福岡	正会員	松尾 孝則	上下水道	福岡市下水道局建設部
福岡	正会員	池松 昭	農業	福岡県朝倉農林事務所
福岡	正会員	大堂 伸二	農業	アジア航測株九州支社九州コンサルタント部
佐賀	正会員	楠田 直稔	農業	株トップコンサルタント
鹿児島	正会員	福留 三郎	農業	株久永コンサルタント設計部
長崎	正会員	毎熊 元	農業	長崎県島原振興局農林部
熊本	正会員	溝下 康之	農業	長崎県島原振興局農林部
鹿児島	正会員	浜元 達也	応用理学	株建設技術コンサルタンツ
熊本	正会員	古島 恵美	応用理学	ライト工業株熊本営業所
福岡	正会員	加藤 晃一	総合技術	福岡県建築都市部
福岡	正会員	高木 誠	総合技術	福岡市役所下水道局河川部
熊本	正会員	寺田 利博	総合技術	五洋建設株九州支店熊本営業所
鹿児島	正会員	浜元 達也	総合技術	株建設技術コンサルタンツ
福岡	正会員	松尾 孝則	総合技術	福岡市下水道局建設部
福岡	正会員	松尾 英典	機械	九州旅客鉄道株新幹線鉄道事業部
福岡	正会員	佐倉 克彦	化学	株新日化環境エンジニアリング技術部
福岡	正会員	副田眞日	化学	新日鐵化学株総合研究所研究部員(嘱託)
熊本	正会員	池本 大輔	建設	株水野建設コンサルタント設計部
福岡	正会員	井崎 孝行	建設	第一復建株環境計画部
佐賀	正会員	大串 正	建設	西日本総合コンサルタント株地盤環境部
佐賀	正会員	古賀 浩史	建設	株親和テクノ佐賀支店技術部
福岡	正会員	白石 悦二	建設	日本工営株福岡支店技術部
福岡	正会員	千々岩浩巳	建設	第一復建株道路構造部総合技術
福岡	正会員	中村 健	建設	第一復建株道路構造部
福岡	正会員	藤井 憲彦	建設	西松建設株九州支店土木部総合技術
福岡	正会員	前田 武	建設	第一復建株都市計画部総合技術
福岡	正会員	松岡 弘文	建設	クイント企画株九州営業所
長崎	正会員	安井 広宣	建設	西日本菱重興産株土木部
福岡	正会員	山田 伸雄	建設	(株)大信土木設計福岡支店
福岡	正会員	原 隆	衛生工学	戸田建設株九州支店建築工事部総合技術
福岡	正会員	山本 直人	農業	新日本グラウト工業株
福岡	正会員	平塚誠一郎	情報工学	福岡県産業・化学技術振興財団
長崎	準会員	神園 剛	化学	ソニーセミコンダクタ九州株第1デバイス開発部
長崎	準会員	市瀬 貴浩	建設	株宇部セントラルコンサルタント
熊本	準会員	井上 澄貴	建設	株ティムパーフォーム九州
鹿児島	準会員	内村 博伸	建設	株大亜測量設計
鹿児島	準会員	西ノ園憲志	建設	株大亜測量設計
佐賀	準会員	服巻 健二	建設	清水建設株九州支店土木部
鹿児島	準会員	若松 幹雄	建設	株大亜測量設計
長崎	準会員	金山 泰久	衛生工学	長崎市環境部
鹿児島	準会員	村田 圭佑	応用理学	住友金属鉱山株菱刈鉱山探査課
大分	準会員	廣田 智彰	機械	南日本造船株設計統括部
大分	準会員	秋國 直文	建設	西日本コンサルタント株
大分	準会員	川野 英喜	建設	西日本コンサルタント株技術部
大分	準会員	竹下 鉄夫	建設	西日本コンサルタント株設計部
福岡	準会員	土橋 修	建設	株日創建設コンサルタンツ専務取締役
宮崎	準会員	黒木 克臣	環境	(有)八千代建設

## ☆会員勤務先変更

(地区)	(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡	正会員	樋口 裕幸	機械	高砂熱学工業株技術本部技術部技術部長
長崎	正会員	岡崎 研児	建設	復建調査設計株長崎支社総合技術
福岡	正会員	齋藤 雅洋	建設	小野田ケミコ株福岡支店
宮崎	正会員	北城 直樹	建設	
福岡	正会員	牟田 英昭	建設	北九州市東京事務所
福岡	正会員	山下きよし	上下水道	極水設計株総合技術
福岡	正会員	内村 好	建設	株建設技術研究所九州支社常務取締役・九州支社長
福岡	正会員	小川 康夫	建設	日本道路株技術営業グループ部長
熊本	正会員	安藤 範仁	森林	国土防災技術株総合技術

## 御協力いただいている 賛 助 会 員

……………〔福岡〕……………	(株)構造技術センター九州支社	大洋測量設計(株)
日本総合コンサルタント(株)九州支店	大和コンサル(株)	西日本コンサルタント(株)
(株)建設環境研究所	アジアエン지니어リング(株)	東洋測量設計(株)
(株)唯設計事務所	……………〔北九州〕……………	九建設計(株)
いであ(株)九州支店	日本航測(株)	日進コンサルタント(株)
中央開発(株)九州支社	(株)九州設計事務所	ダイエーコンサルタント(株)
(株)ダイヤコンサルタント九州支社	九和設計(株)	……………〔宮崎〕……………
日本工営(株)福岡支店	(株)都市開発コンサルタント	(株)弓場水工コンサルタント
昭和地下工業(株)	(株)松尾設計	(株)ロードリバーコンサルタント
第一復建(株)	(株)酒見設計	(株)ケイディエム
(株)松本組	(株)太平設計	(株)親協
(株)エスケイエンジニアリング	環境テクノス(株)	南日本総合コンサルタント(株)
(株)福山コンサルタント	……………〔佐賀〕……………	(株)宮崎産業開発
(株)東京建設コンサルタント九州支店	新九州測量設計(株)	(株)西田技術開発コンサルタント
東邦地下工機(株)	西日本総合コンサルタント(株)	(有)福島測量設計調査事務所
大成ジオテック(株)	日本建設技術(株)	九州工営(株)
富洋設計(株)九州支社	(株)九州構造設計	正栄技術コンサルタント(株)
(株)サンコンサル	新栄地研(株)	(株)東九州コンサルタント
(株)橋梁コンサルタント福岡支社	……………〔長崎〕……………	日測コンサルタント(株)
(株)アイ・エヌ・エー九州支社	大栄開発(株)	(株)ダイワコンサルタント
(株)九州地質コンサルタント	(株)実光測量設計	(株)白浜測量設計
(株)タイヨー設計	西日本菱重興産(株)	南興測量設計(株)
日鉄鉱コンサルタント(株)九州支店	大洋技研(株)	(株)アップス
(株)大建	(株)親和テクノ	(有)カツキ技術士事務所
新地研工業(株)	(株)新栄設計事務所	(株)国土開発コンサルタント
(株)カミナガ	扇精光(株)	(株)都城技建コンサルタント
平和測量設計(株)	……………〔熊本〕……………	……………〔鹿児島〕……………
(株)高崎総合コンサルタント	(株)九州開発エンジニアリング	中央テクノ(株)
西日本コントラクト(株)	アジアプランニング(株)	朝日開発コンサルタンツ(株)
西鉄シーイーコンサルタント(株)	……………〔大分〕……………	(株)久永コンサルタント
日本地研(株)	松本技術コンサルタント(株)	コーアツ工業(株)
第一設計(株)	協同エンジニアリング(株)	大協(株)
九州環境技術研究所	(株)日建コンサルタント	(株)建設技術コンサルタンツ
西日本技術開発(株)	東亜コンサルタント(株)	(H18.8.7現在 95社)
(株)富士ピーエス	九州特殊土木(株)	

## APECエンジニア 登録受付分野の拡大

APEC エンジニアとして登録できる分野のうち、日本では「Civil」と「Structural」の分野について2000年11月から受付を開始しました。

「Civil」分野は技術士が、「Structural」分野は一級建築士と技術士が対象となりました。2003年11月からは、技術士の「船舶・海洋」「航空・宇宙」「化学」「繊維」「金属」「農業」及び「情報工学」の各

技術分野について、全部あるいは一部の選択科目を対象として登録受付の申請を、APEC エンジニアの登録分野「Mechanical」「Electrical」「Chemical」で開始しました。

2006年3月に開催された日本APECエンジニア・モニタリング委員会において、APEC エンジニアの11分野を対象に登録することとし、全ての技術部門（選択科目）についてAPEC エンジニアの登録申請を受け付けることが確認されました。これに伴い日本技術士会では、APEC エンジニア（技術士）第12回新規申請分より、上記申請の受付を開始しました。

## 会誌“技術士”最近の主要目次

### 【P E】技術士6・2006

- ・防災ネットワークと技術士会／向井道彦
- ・国際協力とは人間の協力—アンコール・ワットを守る人材教育15年の成果／石澤良昭
- ・大学での技術者倫理教育体験記／江平英雄
- ・清掃工場の技術をめぐるニュートレンド／二階堂久和・増川幸宏
- ・日本の製造業復活とMOT—いま、なぜ、日本でMOTなのか？—／吉川智教
- ・(社)日本測量協会の「測量継続教育(CPD)制度」について／淵本正隆
- ・技術士登録内容の確認調査について
- ・CPD認定会員制度の発足について
- ・当会のシンボルマークについてのご意見募集

### 【P E】技術士7・2006

- ・優秀な技術者は優秀な教育者たれ／栗山仙之助
- ・技術士と建築士／西巻道寛
- ・バイオレメディエーション／青木卓也
- ・事務所建築のトイレリニューアル手法の提案／関 五郎
- ・「ナノテクイノベーションと国際競争」遠藤守信 信州大学教授の講演要旨／藤田忠宏
- ・計測自動制御学会における技術者継続教育／山下和行・山本倫久
- ・技術士業務報酬の手引きの改定について

### 【P E】技術士8・2006

- ・深刻な地球環境問題とひとつの提案／田中良平
- ・都丸徳治会長に聞く／インタビュー 氷上克一
- ・太陽熱を利用した路面融雪と建物熱源システム／森山和馬
- ・環境インフラとしての屋上等緑化の新機軸／柳田友隆・櫛田晴美
- ・炭鉱技術海外移転／水野正勝
- ・北海道支部40周年記念大会の活動報告から「芽を出した社会貢献」／松井義孝
- ・APEC エンジニア登録受付分野の拡大

## 編集後記

今年も梅雨末期の大被害、夏の高温をはじめ、異常気象による様々な変化が、身体でもはっきり感じる程に顕在化してきました。気象面だけでなく、日常社会面においても、親子の殺傷事件、エレベーター事故、ガス湯沸かし器事故等々様々な事件・事故が発生しており、人間の倫理面に起因する様々な問題が顕在化しているようです。

元を辿ると、「紙一重」の思い込み、油断等が積み重なり、目に見えるまでに悪化してきたといえるでしょう。こうした報道は「氷山の一角」で、その裾野は広く、根深いものがあるように思われます。

私たち技術士も俯瞰的な視点に立ち、高所、大所からあるべき姿をイメージし、日々の仕事において「紙一重」の気持ちを込め直したいものです。技術士会の様々な研修会での新しい情報や人との出会いはそのチャンスとも言えるでしょう。

九州支部の松尾事務局長が8月末日をもって退職されました。お疲れさまでした。

(棚町)

発行：(株)日本技術士会九州支部

九州技術士センター

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1  
(シック博多駅前ビル204)

九州支部： ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4443

E-mail : [engineer@joho-fukuoka.or.jp](mailto:engineer@joho-fukuoka.or.jp)

九州支部ホームページ URL :

<http://www.joho-fukuoka.or.jp/kigyo/engineer>

センター： ☎ / FAX(092)432-4443

印刷：(株)川島弘文社